平成 30 年 8 月 26 日発行

創立 40 周年　大町山岳博物館友の会　　第　176　号

ゆきつばき通信

研修行事のご案内

富山市科学博物館友の会との交流会

富山市科学博物館～いしかわ動物園

昨年は富山市科学博物館友の会の皆さんに山博に来館いただき交流をしました。今年は富山市科学博物館へ出かけて交流したいと思います。あわせて、ニホンライチョウを飼育しているいしかわ動物園（石川県能美町）*1 等の見学をしたいと思います。

《期　　日》　10 月 13 日（土）～14 日（日）
《集合解散》　集合：午前 7 時 30 分　　大町市役所　駐車場
　　解散：午後 7 時　　同上
《行　　程》　2018/10/13（土）　天候等により見学箇所の入れ替えや変更があります
　　大町市役所－道の駅小谷－糸魚川ＩＣ－富山ＩＣ－富山市科学博物館（10:45-13:30　昼食：各自*2）－とやま古洞の森[科博友の会と交流（アカトンボを調べよう・交流会）・富山天文台・宿泊]
　　2018/10/14（日）　朝、散策や野鳥観察ができます
　　とやま古洞の森－富山西ＩＣ－白山ＩＣ－手取峡谷－白山市鶴来（10:30-12:30　白山比咩神社～市街観光　昼食：各自*3）－いしかわ動物園（13:00-14:30）－美川ＩＣ－糸魚川ＩＣ－道の駅小谷･大町
《対　　象》　友の会会員（サークル合同研修を主目的としています）
《持 ち 物》　宿泊用意（パジャマ・洗面具を含む）　雨具　防寒具　筆記具　二日目の朝食*2　（希望者は捕虫網・観察箱・双眼鏡）
《宿 泊 先》　とやま 古洞の森 自然活用村　コテージ（パジャマ類、タオル類、洗面用具は各自）　http://www.furudou.jp/index.html
　　富山県富山市池多 1044　　Tel 076-434-0777
《参 加 費》　大人￥16,000　大学生以下￥13,000　予定金額（精算あり）【交通費　宿泊費（夕食込）入館料･保険代】　このほか、昼食、2 日目朝食は各自
《募集人員》　20 名（定員になり次第、締め切り）
《申し込み》　9 月 1 日より　友の会事務局へ　Tel/Fax 0261-23-6334
　　締め切り　9 月 29 日（土）

*1）いしかわ動物園のニホンライチョウは、非公開です。
*2）初日昼食は博物館周辺食堂、あるいはお弁当持参で。2 日目昼食は鶴来市街散策中に
*3）科博近くにコンビニがあります　コテージは簡単な調理可

［共催事業］

企画展特別講演会「地質探偵ハラヤマ先生 北アルプス研究の最前線を語る」

北アルプスの地質研究の第一人者である原山先生が、30 年間にわたる研究成果をわかりやすくお話しくださいます。北アルプスのでき方がどこまでわかったのか、山河の全域を踏査された苦労話もまじえてご紹介いただけます。山好きのみなさまには、聞き逃せない講演会になると思われます。

《期　　日》　10 月 21 日（日）　13:30～15:30
《会　　場》　大町山岳博物館　講堂
《講　　師》　信州大学特任教授・原山　智先生
《申し込み》　9 月 1 日（土）　午前 9 時より　大町山岳博物館へ　Tel0261-22-0211
　　定員（30 名）になり次第締め切り
※　一般の方は通常入館料が必要になります

秋のティールーム「北アルプスのふしぎ」（企画展関連事業）

日頃、不思議に思っていらっしゃること、考えていらっしゃることをみんなで話しながら、北アルプス談義を楽しんでみてはいかがでしょう？

《内　　容》　1) 企画展解説「北アルプスができるまで」（当館専門員）
　　2) ティータイム「北アルプス -こんなことが知りたい- 」
《期　　日》　11 月 4 日（日）13:30～15:30
《会　　場》　大町山岳博物館　講堂
《申し込み》　9 月 1 日（土）　午前 9 時より　大町山岳博物館へ　Tel0261-22-0211
　　定員（20 名）になり次第締め切り
《費　　用》　茶菓代 300 円
※　一般の方は通常入館料が別途必要になります

※山岳博物館関係の行事は「山と博物館（季刊　9 月末発行）」、同封チラシもご覧ください

「企画展 北アルプスの誕生 激動の 500 万年史」が始まった

オープンの 7 月 21 日には矢野専門員によるミュージアムトークが行われた。

日本列島の地形に対するアルプス地域の特異性から導入し、北アルプスの誕生のストーリーを「飛騨半島」「第１隆起」「第２隆起」「氷河時代」と展開している。飛騨半島とは、北アルプス形成の初期（500 万～250 万年前）には長野県や富山県には海が入っており、北アルプスは北に突き出た半島であったことを指す。天変地異ともいえる大きな火山活動を伴ったマグマによる隆起、今も継続する日本列島にかかる東西圧縮力による回転隆起と“激しく”隆起した北アルプスは、最後に氷河によって削られ、「アルプス」と呼ばれるにふさわしい姿となった。

企画展は 11 月 25 日（日）まで、その間、特別講演会やお茶を飲みながらの気軽な講座が行われる。

※展示については、博物館のページからも概略をご覧いただけます。

【担当役員報告】

小 鳥 の 声 を 聞 く 会

《期　日》　平成 30 年 5 月 12 日（土）　午前 5 時 30 分～10 時
《場　所》　大町山岳博物館 ⇔ 鷹狩山周辺
《参加者》　19 名

昨年復活したものの雨にたたられた小鳥の声を聞く会は、今年は友の会単独の行事として実施した。講師は、おなじみの腰原正己先生と鳥羽悦男先生、参加者は 19 名であった。博物館からは栗林学芸員に同行いただいた。以前は早朝 4 時半に集合していた過酷な行事だったが、少し緩くなって 5 時半集合となっている。また、今年は山頂にはこだわらず、乗越折り返しとした。

山博駐車場付近もいろいろな鳥が観察される。キセキレイやカワラヒワ、サンショウクイなどが迎えてくれた。初めの会の後、二班に分かれて出発。先行は鳥羽班、後続は腰原班。先行有利と見たか、鳥羽班の方が少し多い人数となった。先行がすべて鳥を追い払ってしまうかというとそうでもなく、飛び回るものは飛び回り、なわばりを守るものはさえずっている。いずれにしろ至近で見られるわけではないので、それぞれに同じもの、違うものを観察した。

山の子村入口を過ぎたあたりから霊松寺分岐付近が比較的鳥が多く観察されるエリアである。古い水田の跡で、湿潤なところもあるがだいぶ植生が入ってきている。いきなり飛び出したカモシカにちょっとびっくり。観察された鳥は、ウグイス、オオルリ。奥ではキビタキが鳴いている。前の週にはアカゲラが見られた。キツツキの空けた幹の穴も観察した。

ヘアピンのヒノキ林付近はいつもあまり鳥の声はしない。道端には初夏の花が咲き始めている。ヘアピン下はニオイタチツボスミレが咲き、ヘアピンの上ではオオタ

チツボスミレが見られた。オオタチツボスミレの距（きょ）は白い（腰原先生）。ヘアピンの先端ではコルリ、キビタキの声が良く聞こえた。

曽山への道と切久保への道の分岐を少し曽山寄りに進んだ。針葉樹に挟まれた背の低い雑木付近では北アルプスと大町市街が良く眺められ、記念撮影を行った。梢の先でホオジロが一筆啓上を申し上げていた。キビタキの声を聞きながら切久保への乗越で折り返し、山の子村へ下った（担当役員は早朝にトン汁をデポしに行ったとき、フクロウを目撃）。トラツグミが高い声とちょっと低めの声でしきりに薄暗い森で鳴いていた。イカルがお菊二十四を告げていった。

ここで、先生よりまとめをしていただいた。出現鳥は 31 種で、平均よりはやや少なかったか。今年は、季節の進行は少し早いようだが、寒暖の差が大きい。鳥羽先生からは、「今年はサンショウクイがよく見られ良かったが、探鳥会はその都度いい場面が違っている。扇沢の上などの亜高山帯に行けばコマドリも聞かれると思うので、出かけて視野を広げてもらいたい」とお話いただいた。腰原先生からは、エナガの群れが見られたことに関連して、群れにはほかのカラ類が加わり、繁殖時期が早く、その後混群で行動することなどが説明され、「今の時期は林の中の鳥は見えにくくなって声を中心の観察となるが、楽しめればそれで良い」と探鳥会についてまとめていただいた。

種名／出現年	2018年
アカゲラ	CR
イカル	S
ウグイス	SR
エナガ	R
オオルリ	SR
カケス	C
カルガモ	R
カワウ	F
カワラヒワ	SFR
キジバト	S
キセキレイ	SFR
キビタキ	S
クロツグミ	S
コガラ	S
コゲラ	C
コルリ	S
サンショウクイ	SFR
シジュウカラ	SR
スズメ	R
センダイムシクイ	S
ツツドリ	S
トラツグミ	S
ハシブトガラス	C
ヒガラ	SR
ヒヨドリ	SFR
フクロウ	FR
ホオジロ	SR
ミソサザイ	S
ムクドリ	R
ヤブサメ	S
ヤマガラ	SR
種数	31

なお、今回の出現鳥リストは表のようであった（S：囀り　C：地鳴き　F：飛翔　R：姿確認）。

（丸山　記）

【担当役員報告】

友の会 40 周年記念事業　塩 の 道 を 歩 く

《期　日》　6 月 30 日（土）～7 月 1 日（日）

《場　所》　小谷村　1 日目：地蔵峠越えコース・2 日目：大網峠越えコース

《参加者》　18 名

本年度の「塩の道を歩く」は友の会単独事業として、サンテインおたりに宿泊して6月30日､7月1日にわたり、小谷塩の道の会の澤渡さんと伊与田さんにガイドをお願いして総勢18名で地蔵峠、大網峠の峠越えコースを歩きました。

1 日目は午前８時にサンテインおたりの駐車場に集合して同館のマイクロバスで深原まで送っていただき、８時半から歩き始めました。途中番小屋跡、貝の平（けえのひら）、地団駄、観音菱と、いわれを聞きながら小休止をとって登り、11 時 10 分地蔵峠（1,040m）に到着、眼下に流れる姫川が明治 44 年の稗田山の大崩落でせき止められたことなど聞きながら休憩をとり、更に登って 12 時 20 分、三坂峠（1,230m）に到着して昼食をとった後、ザックを置いて跡杉山（1,285m）をピストンしましたが、あいにくの通り雨で日本海は望めませんでした。13 時 30 分峠から一気に下り、金を採掘しているという地蔵鉱山の脇を通って長者平で 15 時 30 分迎えのバスに乗りました。宿への帰路、運転手さんの計らいで回り道をして、幸田文 歳月茫々碑を経て林道終点の金谷橋までいって稗田山の斜面崩落の様を間近で見ることができました。そんなわけで宿に戻ったのが 16 時 30 分､入浴後夕食をとり 20 時から蛍観察会､21 時 30 分就寝となりました。

2 日目は 7 時の朝食後バスで大網諏訪神社まで送っていただき、旅の無事を祈願して 8 時 20 分から歩き始め、芝原の六地蔵、下清水茶屋跡、横川の吊橋まで約 100m 下って牛の水飲み場、菊の花地蔵、と登り返して途中、ツチアケビ、オニノヤガラと珍しい蘭に出会いながら屋敷跡で昼食をとり、13 時過ぎに大網峠（840m）到着、記念写真をとって角間池、白池と下り、七年に一度薙ぎ鎌神事が行われるという境の宮へと向かうバリエーションルートを下って 15 時 20 分、戸土の分校跡で迎えのバスに乗って宿に戻り、入浴後終わりの会をして無事解散となりました。　　（中畑 清貴）

［共催事業］【シンポジウム＆ディスカッション】

カクネ里氷河の魅力と岳のまち大町の未来

《期　日》　6月9日（土）　13：30～16：30
《場　所》　サン・アルプス大町　2F
《主　催》　大町市　大町市教育委員会（市立大町山岳博物館）

第１部　学術編　－　シンポジウム「カクネ里氷河の魅力」

○北アルプス立山～後立山連峰氷河群の特性
　立山カルデラ砂防博物館　飯田　肇氏
○カクネ里氷河の実像
　立山カルデラ砂防博物館　福井幸太郎氏
○カクネ里氷河をとりまく気象環境
　長野県環境保全研究所　浜田　崇氏
○カクネ里周辺の地形・地質の特性
　信州大学理学部　原山　智氏
○困難の連続－氷河確認までのみちのり
　市立大町山岳博物館　西田　均氏
（総合討論）
◎北アルプス氷河群中におけるカクネ里氷河の学術的価値
　コーディネーター　元調査団長　小坂共栄氏

第２部　ディスカッション編

「カクネ里氷河の岳のまち大町の未来」
パネラー
　（株）ブランド総合研究所代表取締役社長　田中彰雄氏
　大町市長　牛越　徹氏
コーディネーター
　（社）縁家　理事長　黒川惠理子氏

標記の事業が去る6月9日にサンアルプス大町で130名余りの参加で開催された。

カクネ里氷河は、「地理学評論」の2018年1月号（vol91,No.1）で「飛騨山脈で新たに見出された現存氷河とその特性（福井幸太郎・飯田肇・小坂共栄）」として、カクネ里氷河を含めた多年性雪渓について特性の検討や分類がなされ報告された。

第1部は「学術編」で、5名の講演者による報告の後、小坂信大特任教授をコーディィネーターに総合討論が行われた。

飯田先生は国内6例の氷河の概要や特徴をお話され、低緯度で氷河が存在し得る理由として「多雪」をあげられた。

福井先生はカクネ里の調査情報を整理し、カクネ里が氷河と認定されるに至った経緯根拠をお話された。

浜田先生は気象条件からカクネ里での氷河の成立・存続についてお話され、気温が高く、気候的にはきわどいが、全体に消耗量が小さいと述べられた。

原山先生はカクネ里が地形的に日本海から雪雲が流入しやすい位置にあること、現地調査によって地質の連続性が確認され、巨大カルデラの存在が明らかになったことを話された。

西田先生は空撮画像を紹介されながら、安全や法規にのっとった調査の経緯や不安定な天候に苦労されたことをお話された。

総合討論では、まず会場からの質問をうけ、論文発表の経緯が話された。そして、立山、後立山のこの地域に集中的に氷河が氷河群として存在する学術的意義は何かについてまとめられた。当地は世界的な「多雪」地帯であり融けるよりも積もる、局所的な気候環境は諸外国の氷河地帯と大きく変わっていない、乾いた季節風が日本海を渡るときに暖流の日本海からの蒸発散を取り入れて多くの雪を降らせる、世界的に多くの雪が降るところは珍しい、温暖化によって降水量が増えるので雪が増える可能性はある、雪から氷に変わるプロセスが海外に比べて早く湿った雪となることが成長を早めているかもしれない、氷をボーリングで採取して環境を含めた解析ができればと思うが礫を多く含んだ氷で掘削は難しい、内蔵助のようなムーラン（亀裂）に降りて直接氷を採取することは可能とみられる、等がコメントされた。

なお、大町山岳博物館の研究紀要に第３号に研究成果がまとめられている。

第２部のディスカッションは、牛越徹大町市長と（株）ブランド総合研究所の田中章雄社長をパネラーに向え、（一社）縁家の黒川惠理子理事長をコーディネーターに行われた。

この中で、カクネ里氷河を通して市民に愛着を持ってもらいたい、観光に活用したい（市長）、しかしカクネ里は山に行かないと見られない（黒川氏）といった提示に対して、田中氏より次のようなアドバイスがなされた。

○地域ブランドとして、他所にはないものとして差別化をする
○カクネ里が見られないことに問題はなく、見られないことが憧れとしてブランドとなる
○擬似体験できるものを考える。夏に雪をさわれれば、次は本物への期待が生まれる、

Information 日本海と多雪

氷河期の全盛期は地球の水がユーラシアやスカンジナビア、北米で大陸氷河として固定され海水準が現在より100m以上低下していた。このため日本海に入る対馬暖流は非常に少なくなり、日本海の寒冷化のため蒸発量や積乱雲の成長が減少し、降雪は少なかったものと考えられている。最終氷期の最寒冷期以降（縄文時代以降）に暖流の増加により多雪化したと考えられている。
ヒマラヤ山脈と日本海の存在が、日本を有数の多雪地帯としている。

リピーターとなる。一回では満足させない、次への期待につなげる
○市民ではなく､外からの視点で観光戦略を作る｡20 才代対象なら 20 才代が考える。
外国人が対象なら、外国人が考える
○相手のニーズに、持っている財産を活用することを考える
○今あるものは足枷にしかならない。ありえないものを考える
黒川氏からも「おもてなしは次への期待を作ること」といったお話もあり、なかなか難しい課題となった。友の会会員の皆さんも市外の方が多く、ぜひありえない提案をいただけたらと思う。

（編集担当　丸山）

【報告】

大糸タイムス友の会から支援金

山博及び友の会の行事などをいつも報道していただいている大糸タイムス紙との友好、協力、応援等の連携により地域振興の活動をしている「大糸タイムス友の会」（会員 105 事業所）から、地域で顕著な活動をしている団体にと、支援金 3 万円を戴きました。7 月 9 日の総会に合わせて贈呈式が行われ、宮澤会長と事務局の清水副館長が出席し、併せて友の会の活動紹介なども行いました。

【報告】

烏帽子の会

活動報告　東山尾根歩き・平成 30 年度総会

《月日》5 月 26 日（土）　《天気》晴れ　《参加者》15 名

《コース状況：その他周辺情報》

ゴールデンウィーク後という事もあり、我々以外山歩きをしている人には誰にも会う事はなかった。マウンテンバイクのコースも出来たという事であったが、バイクに乗った若者に会う事もなく、静かな山歩きが出来た。

ただ、東山一帯は倒木が多く「継子落し」行きは中止し、帰りの東山尾根歩きも下草が生い茂り非常に歩きにくいということで、僅かの距離を歩いて森の中に入り、下

って来た。それ以外の林道（車道）は整備されていて歩きやすい道だった。

《感想》

暑くもなく寒くもなく、そして風もなく穏やかな登山日和の中、池田の東山にある滝沢城址を目指して歩きました。東山を西側から見るとほとんどが針葉樹に被われ広葉樹はほんの少し、秋深くなっても紅葉することもなく深い緑と茶色の 2 色だけで、何とつまらない山かとずっと思っていました。しかし、今回の登山で、滝沢城（山城）があったこと、そしてその城主・城歴・城跡・主郭部の説明が書かれたコピーを読ませていただき、大変歴史のある山であり、滝沢地区であったという事を知りました。13 年も池田に住んでいて“ボーッと生きてんじゃねーよ”と、あのチコちゃんに叱られそうです。

主郭部は崩落してしまい全く跡形もなく、その崩落跡を覗き込んで見たが異様な光景に足が竦んでしまいそうでした。せめて苔むした石垣を僅かでも確認する事が出来れば、城があったという想像を膨らます事が出来るが、この現状を見ればとても無理であった。そして、この穏やかな天気の中で小鳥の囀りも多く聞かれ、キビタキ、オオルリ、アオゲラ等に加え、“ホイ、ホイ、ホイ”の鳴き声が。まさかこんなところにサンコウチョウがいる訳ないと思っていたが、川崎さんが“ホイ、ホイ、ホイ”をスマホで調べたところ、正しくサンコウチョウであるという。この東山にサンコウチョウが渡って来ているなんて本当に驚きです。また花々も多く、下見の時には何とニリンソウの自生群が一面に咲き誇っていたのですが、26 日には一輪も咲いておらず、参加者に見ていただけなかったことが残念でした。

この様な自然豊かな里山が身近にあることに感謝し、これからも四季折々観察をしながら歩いて行きたいと思った 1 日でした。

この日は大雪渓の日本酒祭りがあった様で、解散後数名の方が参加されたとの事、程好い疲れもありさぞ日本酒がおいしかったことでしょう。そして良い眠りにつかれ

たことでしょう。

《コースタイム》
池田道の駅　集合 8:30 出発 8：55　２台の車に分乗し滝沢城址入口駐車場着～滝沢城址 9：25～田ノ入 10:50　東山尾根歩き～クラフトパーク　安曇野東山包美術館 12:15（絵画展鑑賞・昼食・総会）～池田道の駅 14：00

次回山行（総会）予定（参加にはサークル加入が必要です）

H30/９月	上伊那郡　陣馬形山
１１月	伊那市　権現山
H31/１月	北杜市　日向山
３月	小谷村スノーシュー
５月	小熊山風穴・猿ヶ城・狼煙台周辺

☆予定は変更されることもあります。

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで。

ボランティアサークル

暑い夏は、早い行動と日陰での除草、館内のガイドや解説活動などを実施しました。「企画展 北アルプスの誕生 激動の 500 万年史」のミュージアムトークもみんなで聴講し、今後の活動の糧としました。

《今後の活動予定》
○博物館周辺の除草等環境整備（10 月まで）
○「山と博物館」「ゆきつばき通信」の発送作業
○連休等休日の館内ガイド、案内
○館内ガイド等のために研修会（8 月 26 日は 2 階地質展示の研修、10 月 13 日～14 日に本会の協力事業として富山市科学博物館友の会と交流を兼ねて、動物園、博物館見学等；P. 1 のご案内参照ください。サークルに入っていない会員の参加も可）

《随時会員募集中》
ボランティアサークルでは、一緒にボランティアに参加して下さる方大歓迎です。ボランティア保険に加入手続きが必要ですので、事前に博物館までご連絡下さい。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで。

大 町 の 雨 に つ い て

丸山卓哉

大きな雨災害が広い範囲で発生しました。大町はどのくらい雨の降るところなのでしょう？

大町のアメダス（1978 年 11 月開設）によると、日降水量の最大は 162mm(2004/10/20 大町各地で土砂押出し発生；時間最大 20mm)で、歴代 10 位は 100mm を越えています。月降水量の最大は 452mm(1995/7 「7. 11 長野県北部豪雨災害」)で、歴代 10 位は 300mm を越えています。葛温泉が大きな被害を受けた「44 災」（1969 年 8 月 11 日）は山岳部で特に多く、降り始め（7 日）からの雨量が南沢岳で 402mm に達しましたが、笹平では 137mm でした。記憶に新しい 1995 年の小谷豪雨災害（「7. 11 長野県北部豪雨災害」）では 7 月 11～12 日の 2 日間の雨量が大町市で 151mm（10 日までの 7 月上旬雨量は 191mm）、小谷村では 389mm、白馬村では 333mm でした。2006 年 7 月に県内各地に災害をもたらした豪雨（平成 18 年 7 月豪雨）では、大町市で 7 月 17 日から 19 日までに 187mm を記録した他、月雨量は 403mm となりました。

2018 年 7 月の西日本豪雨災害（平成 30 年 7 月豪雨）では 1000mm 以上のところが多くあり、日雨量も 200mm から 500mm 近くが 4 日連続しました。梅雨前線の停滞が始まった 6 月 28 日～7 月 8 日の降り始めからの総雨量は、高知県馬路村で 1852.5mm、岐阜県郡上市で 1214.5mm、愛媛県西条市で 965.5mm、佐賀市で 904.5mm を観測しています（大町市では 5 日に 131mm/日、4～7 日で 181mm）。

西日本の水害・土砂災害がいかにすごい雨量であったかもわかりますが、大町では日降水 150mm 以上、連続 300mm 程度の比較的少ない降水でも小規模とはいえ災害になる恐れが高いともいえます。

大町市は西に山を背負っているため、東側からの吹込みが連続すると大雨になる恐れがあります。特に山岳部での降水となるため、高瀬川については洪水調整機能がありコントロールされていますが（これは、避難までの時間稼ぎと承知してください）、他の水系では平地ではそれほどでなくても洪水や増水となる恐れがあります。

災害に至る雨の状況を「恐怖を感じる」とか「（しぶきが立って）白い雨が降る」といい、時間換算で 50～100mm 前後の降水状況であり、短時間なら雷雨のときにもあります。

大町市に限らず災害を予測した地図、「ハザードマップ（被害予測地図、防災地図）」が用意されています。開発が進み、すべての住宅や施設を安全に守ることは時間的にも工費的にも不可能となっており、災害予測、予防のソフト対策がハザードマップです。早期避難の一助とするもので、人的被害を最小限にする（命だけ持って逃げなさい）というものです。

なお、災害時、災害の恐れのあるときはアクセスに非常に時間がかかります。あらかじめ確認、出力して自宅周辺の危険要素を知って、避難場所も確認しておきましょう。さらに、防災工事は一定の想定と安全率の中で行われており、永久にどんな災害からも街や人を守れるものではないことも知ってください。

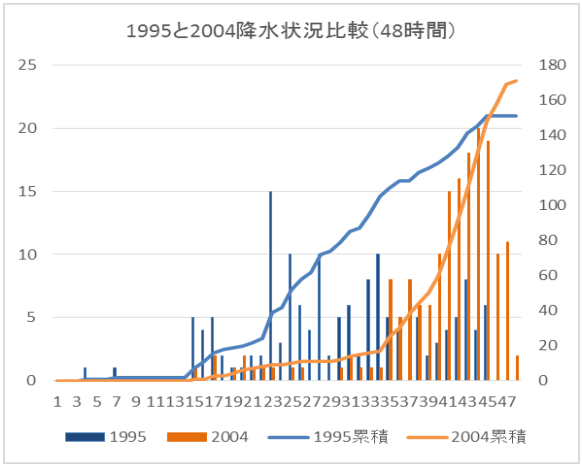
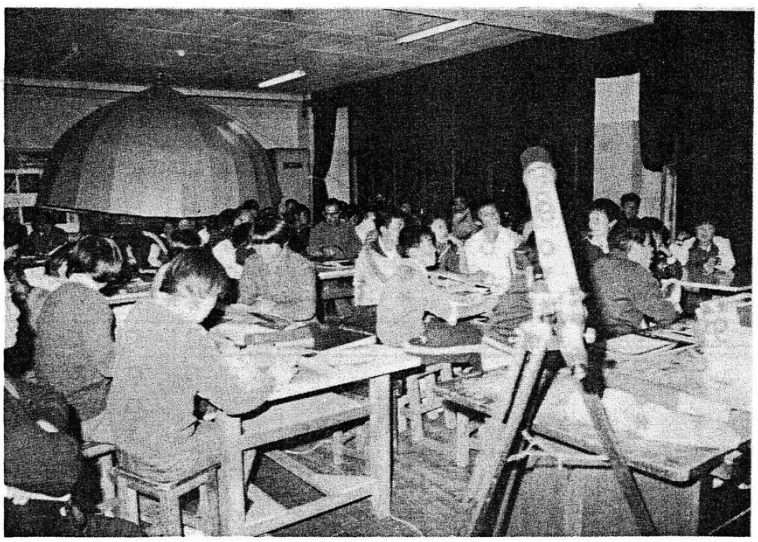


図　比較的降水の多かった日（2 日間）の降水状況（時間雨量と累積；㎜）
2004 年は降水が比較的短時間に集中している

40 年のアルバムより

1978 年 10 月 07 日　星をみる会　（ゆきつばき 1 号より）

青木正博先生と木船清先生を講師に、大町市立第一中学校で行われました。あいにくの天気だったようですが、晴れれば、5 日の月と、夏の大三角が良く見られたことと思います。



星をみる会で青木正博先生の講義をきく

ゆきつばき通信編集室より

友の会 40 周年が順調に進んでいます。この機にうれしいことに、大糸タイムス友の会様より「地域で顕著な活動をしている団体」として支援金をいただきました。大糸タイムス友の会（http://www.ohitotimes.co.jp/tomonokai.html）は地域の経済、文化、スポーツ等の発展に努められている団体で、講演会や会員の親睦を図る活動をしておられます。私たちや博物館の活動も大糸タイムス紙には大変お世話になっており、過日の「塩の道」も取材掲載いただきました（web 版　7 月 6 日号で見られます）。このように、地域からも関心を持っていただくことは、大変励みになることだと思います。

（丸山卓哉）

ゆ　き　つ　ば　き　～友の会創立 40 周年記念号～　原　稿　募　集　中

要項はゆきつばき通信 174 号をご覧ください　山博ＨＰからも見られます

山岳博物館の「山と博物館」は季刊となりました。次号は 9 月末の発行を予定しています。

山博ページ　http://www.omachi-sanpaku.com/

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

会費のご案内

会費振替口座番号　00550－2－24194　加入者名　山博友の会

ファミリー 4,000 円　　個人 3,500 円　　学生 2,000 円

※ファミリー会員とは、同居または扶養家族をさします。学生会員とは、小学生～大学生までをさします。
4 月が年度切り替えとなっています。中途入会の場合は年度当初にさかのぼって出版物等を配布します。
賛助会員につきましてはお問い合わせください。

ゆきつばき通信　第 176 号

発行／大町山岳博物館友の会　　平成 30 年 8 月 26 日

〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334